

PET サマーセミナー 2014 in 小樽 印象記

坂井 修二

Sakai Shuji

2014 年の PET サマーセミナーは 8 月 29～31 日の 3 日間、塚本江利子会長（セントラル CI クリニック）の下、小樽市のグランドパーク小樽で開催された。テーマは「All for PET, PET for all ～みんなで作る PET 検査～」である。約 600 名の参加者を集め、大変盛況であった。猛暑の年ではなかったが、湿気は少なくハーバーの見える小樽築港での開催は快適な 3 日間であった。本セミナーを一言で言い表すなら、塚本会長とセントラル CI クリニックの職員の方々による手作りのセミナーであったと思う。随所に開催者の心配りと参加者に対する思いやりが感じられ、最初から最後まで本当に行き届いた会であった。

開会宣言に先立って 2 社のユーザーズミーティングが開催されたが、2 社とも前もって案内を出した自社の製品のユーザーのためだけに開催したというより、参加者が会場に到着して食事をとりながら気楽に参加できる会となっており、招待状をチェックをすることもなく、希望すればいずれの会場にも入ることができた。ユーザーズミーティングと名が付くと、招待状が届いたユーザーのみ参加が許されるクローズな会の印象があるが、メーカーにとっても多くの参加者がいた方がいいと思うので、次回このような会を予定するなら名称を検討する余地があると思われた。

その後、塚本会長の開会宣言があり、いよいよプログラムの開始となった。最初のセッションとイブニングセミナーは 2 会場で行われた。

Work in progress ではそれぞれのメーカーの優れた技術をほかのメーカーの担当者が解説をし、褒めるといった催しであり、大変ユニークな趣向であると感じた。それぞれのメーカーの担当者は予め賞賛するメーカーを指定されており、対象となる技術を解説するのだが、ブラックボックスの部分では想像を交え解説することとなる。それぞれの発表者は大変であったと思う。しかし、批判するより褒め合った方が聴衆は気分が良く、この企画は大変良い企画であると感じた。夜の学校では、メイン会場で「Love Letter」と題された症例検討会が行われたが、協賛メーカーの協力により実際の症例を DICOM ビューワーで提示していただいたので、実診療に近い形でのディスカッションが可能であった。現在、色々な研究会でクラウドコンピューティング技術で多施設の症例を研究会会場で表示しディスカッションすることも行われているが、実際の DICOM ビューワーを持ち込んでのディスカッションは実診療に近い形で行え、今後主流になるであろう。次回も可能ならこの形を踏襲させていただきたいと思った。その他の夜の学校は、標準化、トレーサ、クレーム対応と、それぞれの職域を意識したテーマが用意されていた。

2 日目は会員総会に始まり、ランチョンセミナーを挟み、セッション 3～13 の 11 セッションが開催された。疾患別では心臓サルコイドーシス、認知症、検査では FDG とアミロイドイメージングのセッションが用意され、FDG 以



写真 1 懇親会での鏡割り

外のトレーサの現在をまとめたセッションもあった。また標準化に関しては、FDG-PET/CTのガイドライン第2版と、学会GMPの特集が組まれていた。第3会場では、PETの基礎、給食に関すること、被ばくに関する特集が組まれ、診療放射線技師以外のメディカルスタッフの参加者を対称としていた。そして、夜は盛大に懇親会が営まれた。鏡割りに始まり(写真1)、朝採れのトウモロコシの振る舞い、塚本会長自ら司会をしての御当地クイズ大会など大変楽しい会であった。そして、一晩目と同様二晩目も遅くまでホテルの部屋で飲み明かす多くの参加者が、熱く情報交換を行った。筆者も噂に聞いていたが、この懇親会から二次会が本セミナーの真骨頂であることを思い知った。

3日目は、悪性リンパ腫、PET検診、承認が期待されるPET薬剤合成装置の特集と領域別



写真 2 閉会宣言に続く次期大会長挨拶

の一般演題のセッションを午前中で終えた。最後に塚本会長と主催関係者による挨拶があり、筆者も次期会長挨拶の機会をいただいた(写真2)。最後まで多くの参加者がセミナーを盛り上げる雰囲気が大変良い感じであった。

筆者は今回が本セミナーの初参加であり、次回開催側の場と、聴衆側の両方での参加であったが、綿々と続けられてきた本セミナーへの皆さんの熱い思いを肌で感じる事ができたのが一番の収穫であった。次回は筆者が会長となり、東京ディズニーリゾートで9月4～6日に開催予定(<http://pet-summer-seminar.jp>)であるが、この良き伝統を踏襲しながらも、新しい企画を盛り込んでいきたいと思う。PETサマー2015 in 東京ベイで多くの皆さんとお会いできることを楽しみにしている。

(東京女子医科大学)